

研究ノート

教職科目履修生における職業への志向性

Influence of Preference for Occupation among Students Taking Teacher Training Course.

宮原道子*

MIYAHARA Michiko

The preference for the occupation, which influences vocational decisions of the students taking teacher-training course was considered by targeting university students (N=104) who completed a questionnaire developed by Morita (2006). The results showed that vocational decision is influenced by preference for sociality, autonomy and cooperation with co-workers, among which the largest influence was of preference for cooperation with co-workers.

キーワード：教職科目履修学生 (students taking teacher training course), 職業選択 (vocational deciding), 志向性 (preference)

1. 問題と目的

本研究では、開放制の教員養成課程を持つ大学の教職科目履修学生 (2 回生以上) を対象に、職業決定に影響する職業への志向性を検討することを目的とする。

森田 (2006) では医学部進学者を対象に、職業決定に影響する職業への志向性を検討し、人間関係への志向と関連の強い「仕事仲間との連携志向」と専門職を支える「知識・技術の習得と発展志向」が影響することを見出した。同様に、対人援助という側面の強い教育職への興味が高い学生では、職業決定における人間関係への志向と職業決定との間にどのような関係が示されるだろうか。

2. 方法

(1) 参加者

A 市内の私立 B 大学で、教職科目の教育心理学を受講している文学部の学生 104 名を対象とした。性別の内訳は、男子 53 名、女子 51 名であった。学年の内訳は、2 回生 78 名、3 回生 16 名、4 回生 8 名、5 回生 2 名であった。平均年齢は 20.2 歳、SD は 1.4 歳であった。なお、B 大学は教員養成系学部を持たず、開放制の教員養成課程となっている、

(2) 質問紙の構成

森田 (2006) に従い、以下の 3 種類の尺度で構成された質問紙を使用した。

1) 職業専門性志向尺度

森田 (2006) の調査 1 で作成された質問紙を使用した。これは 32 項目で構成されており、項目はすべて「～な職業」という文言で統一されていた。それぞれの職業について、「非常につきたい (6 点)」、「かなりつきたい (5 点)」、「ややつきたい (4 点)」、「あまりつきたくない (3 点)」、「ほとんどつきたくない (2 点)」、「全然つきたくない (1 点)」の 6 件法で評定を求めた。

2) 職業決定尺度

「職業決定」を測定する尺度として、下山 (1986) の「職業未決定」尺度における下位尺度のうちの「決定」尺度 4 項目を用いた。項目内容はそれぞれ、「Q1: 自分の職業計画は着実に進んでいる」、「Q2: 自分のやりたい職業は決まっており、今はそれを実現していく段階である」、「Q3: 自分の職業決定には自信を持っている」、「Q4: 自分なりに考えた結果、最終的に一つの職業を選んだ」であった。すでに志望する職業が決まっている状態を示すこれら 4 項目は、下山 (1986) において、職業未決定の状態を反映する項目とは異なるものとして「決定」尺

*所属 大阪観光大学観光学部 / 教育心理学

度を構成しており、十分な信頼性 (α 係数 = .73) が得られていることから、「職業決定」を測定するものとして使用することにした。なお、回答は「当てはまる (3 点)」「どちらともいえない (2 点)」「当てはまらない (1 点)」の 3 件法で評定を求めた。

3) 就業動機尺度

安達 (1988) で作成された尺度を用いた。項目としては、安達 (1998) が最終的に分析対象とした 38 個を使用した。「当てはまる (5 点)」「やや当てはまる (4 点)」「どちらともいえない (3 点)」「あまり当てはまらない (2 点)」「当てはまらない (1 点)」の 5 件法で評定を求めた。

(3) 手続き

調査は 2018 年 11 月に実施された。教職科目の教育心理学の授業終了後の教室で、受講生に調査への協力を呼び掛けた。

3. 結果と考察

(1) 因子分析と尺度構成

1) 職業専門性志向尺度

職業専門性志向尺度 (森田, 2006) の 32 項目を用いた因子分析 (主因子法) を行い、固有値の減衰状況 (第 1 因子から順に 5.37, 3.04, 2.59, 2.28, 1.35, 1.24, 1.08) と解釈可能性から、4 因子までを採用し、バリマックス回転を施した。4 因子に対する因子負荷量がすべて 0.35 未満であった 5 項目 (時代の変化とともに消えていくようなことのない職業、「将来的に安定している」と感じられる職業、世間が何を求めているかを気にせずに、自分の専門だけに取り組むことのできる職業、学校で何を学んだかをあまり問われることのないままつくことのできる職業、いろいろな人間を支援することにつながるような職業) と、二つ以上の因子に因子負荷量が 0.35 以上であった 3 項目 (法律や規則などによって身分が明確になっている職業、仕事を通して、自分だけでなく社会にもメリットをもたらすことのできる職業、なるべく自分一人で仕事の方針を決められる職業) を削除したうえで、再度因子分析 (主因子法, バリマックス回転) を行った。Table 1 は、回転後の因子パターンと共通性 (因子抽出後) である。第一因子は森田 (2006) の第 5 因子とほぼ同一であったことから、同じく「知識・技術の習得と発展志向」と命名した。第二因子は、森田 (2006) の「利他主義志向」因子と「資格などによる権威づけ志向」因子の

項目が混ざった内容であり、「社会性志向」と命名した。第 3 因子は森田 (2006) の第 1 因子とほぼ同一であったことから、同じく「自律性志向」と命名した。第 4 因子は、森田 (2006) の第 2 因子とほぼ同一であったことから、同じく「仕事仲間との連携志向」と命名した。そして、各因子を特徴づけた項目群によって、職業専門志向尺度の 4 つの下位尺度を作成した。信頼性を示す α 係数は第 1 因子から順に .843, .776, .806, .777 であり、いずれの下位尺度においても十分な信頼性が示された。各下位尺度における項目群の得点を合計したものを、職業専門性志向尺度の各下位尺度得点とした (Table 2)。

森田 (2006) では、職業専門性志向尺度は 5 因子構造を採用していたが、本研究では解釈可能性から 4 因子構造を採用した。第 5 因子を構成する項目が 2 つのみであったからである (学校で何を学んだかをあまり問われることのないまま就くことのできる職業、世間が何を求めているかを気にせずに、自分の専門だけに取り組むことのできる職業)。森田 (2006) で「利他主義志向」尺度と「資格などによる権威づけ志向」尺度とに分かれた項目は、本研究ではないまぜになって「社会性志向」尺度を構成した。「利他主義」と「資格などによる権威づけ」に対する意識が未分化であるという結果は、職業の専門性に対する意識の変化の現れととらえられるだろう。

2) 就業動機尺度

就業動機尺度 (安達, 1998) では、安達 (1998) では 4 因子、安達 (2001) では 3 因子と採択された因子数が異なっていた。そのため、安達 (1998) の 38 項目を用いた因子分析 (主因子法) を行い、固有値の減衰状況 (第 1 因子から順に 8.863, 4.242, 3.376, 2.200, 1.681, 1.351, 1.314, 1.179, 1.097, 1.013) と解釈可能性から、3 因子までを採用し、バリマックス回転を施した。3 因子に対する因子負荷量がすべて 0.35 未満であった 6 項目 (困難な仕事でも人に助けを借りずに自分の力でやり遂げたい、将来就こうと考えている職業に関連した講習会やセミナーには進んで参加しようと思う、職場ではムードメーカーになりたい、社会的に有意義な仕事をしたい、世間で非常に難しいとされている仕事をやり遂げたい、将来したい仕事に役立つ資格や免許を取得するつもりだ) を削除したうえで、再度因子分析 (主因子法, バリマックス回転) を行った。Table 3 は、回転後の因子パターンと共通性 (因子抽出後) である。因子名は、安達 (2001) と同じく、第一因子から順に「自己向上志向動機」、「上位志向動機」、「対人志向動機」と命名した。そして、各因子を特徴づけた項目群によって、職業専門志向尺度の

3 つの下位尺度を作成した。信頼性を示す α 係数は第 1 因子から順に 0.899, 0.861, 0.822 であり、いずれの下位尺度においても十分な信頼性が示された。各下位尺度における項目群の得点を合計したものを、職業決定尺度の各下位尺度得点とした (Table 2)。

この結果は、安達 (2001) 及び森田 (2006) で得られた結果とほぼ同様であった。就業動機尺度は安定した構造をしていることが示された。

3) 職業決定尺度

職業決定尺度の 4 項目の信頼性係数 α を求めたところ、.896 であり、十分な信頼性が示された。そこで 4 項目の合計得点を職業決定尺度得点とした (Table 2)。

(2) 下位尺度得点の分析

1) 相関分析

職業専門性志向尺度の 4 つの下位尺度得点 (知識・技術の習得と発展志向, 社会性志向, 自律性志向, 仕事仲間との連携志向) と就業動機尺度の 3 つの下位尺度得点 (自己向上志向動機, 上位志向動機, 対人志向動機) と職業決定尺度得点を用いて、相関係数を算出した (Table 4)。

まず、「職業決定」と「自律性志向」及び「自己向上志向」との間に有意な相関が得られた。職業を決定する上では、自分の裁量で働けることや自己向上できることが求められていることを示している。森田 (2006) と異なった「社会性志向」は、「自律性」、「自己向上志向動機」及び「上位志向動機」と有意な相関が得られた。これは、社会的に評価される仕事には、働く際に自分の裁量が認められることを志向することは、自己向上心や、より裁量権がつい社会的地位や名誉の獲得を目指す気持ちが反映していると考えられる。「仕事仲間との連携志向」と「対人志向動機」の間には強い相関が得られ、人間関係への志向があることが示された。

2) 重回帰分析

職業専門性志向尺度の 4 つの下位尺度得点 (知識・技術の習得と発展志向, 社会性志向, 自律性志向, 仕事仲間との連携志向) を説明変数として、職業決定尺度得点を目的変数とする重回帰分析を実行した。初期モデルを加法モデルとし、ステップワイズ増減法により情報基準 BIC を用いたモデル選択を行った結果、「職業決定 = 社会性志向 + 自律性志向 + 仕事仲間との連携志向」を選出した。モデルステップの要約を Table 5 に示した。さらに、選出されたモデルにおける各項目の偏回帰係数とその検

定結果は Table 6 の通りであった。

モデル R^2 は 0.5133 で有意だった ($F(3,100) = 35.161$, $p = 0.0000$, adjusted $R^2 = 0.4987$)。従って、職業決定の半分程度は、「社会性志向」と「自律性志向」と「仕事仲間との連携志向」で説明されるといえる。特に、社会性志向の偏回帰係数がマイナスの値を示していることが注目される。職業決定においては、森田 (2006) において「利他性志向」や「資格による権威づけ志向」とされた項目を含む「社会性志向」は、社会的評価の高さを求める傾向ととらえられたが、社会的評価を望む人ほど、職業決定が進まないという結果が得られた。また、Table 6 の標準化偏回帰係数 (stb) を比べると、「仕事仲間との連携志向」が他の項目以上に強い影響を及ぼしていることが明らかである。これは、仕事を通じて人間関係を深め、仲間を得たいという学生の強い志向が反映された結果と考えられる。

モデル選択過程で「知識・技術の習得と発展志向」が除外されたが、これは、職業決定において学校で身につけた知識や技術が直接的には結びつかないという学生の考えを反映したものと考えられる。

(3) まとめと今後の課題

本研究は、教職科目履修学生 (2 回生以上) の職業決定に影響する職業への志向性を検討した。その結果、「職業決定 = 社会性志向 + 自律性志向 + 仕事仲間との連携志向」という結果が得られた。社会的評価を求めると教員という職業決定にはつながりにくく、仕事仲間との連携志向が職業決定には大きな影響力を持つことが示された。

本研究の課題は、調査対象となった人数の少なさと、学年が 2 回生から 5 回生まで分布していることである。今後対象者を増やしてさらに分析を行うと共に、学年の違いによる影響を検討する必要がある。

【引用文献】

- 安達智子 (1998). 大学生の就業動機測定を試み. *実験社会心理学研究*, 38, 172-182.
- 安達智子 (2001). 進路選択に対する効力感と就業動機, 職業未決定の関連について: 女子短大生を対象とした検討. *心理学研究*, 72, 10-18.
- 森田慎一郎 (2006). 大学生における職業の専門性への志向: 尺度の作成と医学部進学予定者の職業決定への影響の検討. *発達心理学研究*, 17, 252-262.
- 下山晴彦 (1986). 大学生の職業未決定の研究. *教育心理学研究*, 34, 20-30.

Table1 職業専門性志向尺度の因子分析結果

項目名	因子				h ²
	1	2	3	4	
A15仕事を通して、「学校で勉強したことが役立っている」と感じられる職業	0.859	0.051	0.069	-0.036	0.747
A20学校で学んだ知識や技術を活かすことのできる職業	0.846	0.064	0.065	0.052	0.726
A5仕事の内容と学校で学んだこととの関連が深い職業	0.819	0.044	-0.016	0.095	0.683
A10学校で学んだことを、仕事の中で発展させていくような職業	0.773	0.072	0.169	0.244	0.691
A24世間の人々から「先生」と呼ばれるような職業	0.403	0.242	-0.045	-0.008	0.651
A9世間の人々から尊敬されるような職業	0.147	0.678	0.098	0.070	0.495
A4「社会的な地位が高い」と感じられる職業	-0.041	0.667	-0.030	-0.018	0.448
A13「この仕事をするのが世の中のためになっている」と感じられる職業	0.040	0.534	0.267	0.038	0.359
A3一部の人間だけでなく社会全体のためにもなるような職業	0.088	0.514	0.320	0.234	0.430
A18「世の中になくなくてはならない」と感じられる職業	0.313	0.495	0.162	0.091	0.378
A29「将来的に安定している」と感じられる職業	-0.005	0.488	-0.129	0.055	0.257
A30「自分はこの仕事を任されている」と感じられる職業	0.111	0.482	0.313	0.068	0.347
A19資格を持つ人々だけが仕事をするを許される職業	0.127	0.380	0.162	-0.182	0.219
A21自分の考えで仕事を工夫していくタイプの職業	0.027	0.273	0.759	0.050	0.654
A1自分の判断によって仕事を進めるような職業	-0.013	0.194	0.733	0.070	0.580
A11仕事の目標は自分で立てていくタイプの職業	0.133	0.252	0.730	-0.059	0.618
A6仕事のやり方は自分で考えていくタイプの職業	0.211	-0.252	0.569	0.085	0.440
A26他人の指示に従って仕事を進めるような職業	0.056	-0.011	-0.557	0.017	0.314
A7仕事をする仲間どうしのつながりが深い職業	0.177	0.161	0.040	0.807	0.711
A2仲間同士で助け合いながら仕事をする職業	0.168	0.233	0.014	0.754	0.651
A17「チームで仕事をする」という機会がほとんどない職業	-0.078	0.160	0.063	-0.586	0.379
A12仕事をする仲間どうしが互いに励ましあう雰囲気のある職業	0.168	0.331	0.091	0.546	0.444
A27仕事のルールは仲間同士で決めていくタイプの職業	-0.070	0.084	0.110	0.494	0.268
A22同じ仕事をしている人間どうしで話をするようなことがあまりない職業	0.067	0.227	0.038	-0.485	0.293
説明分散	2.884	2.313	2.280	2.341	
寄与率	0.223	0.127	0.108	0.095	
累積寄与率	0.223	0.350	0.459	0.553	

Table2 各下位尺度得点の基礎統計量

尺度	平均	SD	最大値	最小値
知識・技術の習得と発展志向	18.58	4.66	30	5
社会性志向	33.86	5.12	48	20
自律性志向	19.95	3.80	30	9
仕事仲間との連携志向	25.32	4.16	36	15
職業決定	13.85	2.29	20	6
自己向上志向動機	55.45	9.01	75	26
上位志向動機	26.82	5.59	39	10
対人志向動機	32.01	5.71	45	18

Table4 相関係数一覧

	社会性志向	自律性志向	仕事仲間との連携志向	職業決定	自己向上志向動機	上位志向動機	対人志向動機
知識・技術の習得と発展志向	.280**	.146	.189	.128	.175	.093	.303**
社会性志向		.321**	.151	.080	.236*	.625**	.173
自律性志向			.075	.389**	.635**	.154	.221*
仕事仲間との連携志向				-.100	.190	.081	.738**
職業決定					.587**	-.002	.151
自己向上志向動機						.198*	.447**
上位志向動機							.166

**、相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

*、相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

Table3 就業動機尺度の因子分析結果

	因子			h ²
	1	2	3	
C27努力や能力を必要とする仕事をしたい	0.755	0.045	0.096	0.582
C35仕事で成功するためには決して努力を惜しまない	0.750	0.146	0.124	0.599
C34将来仕事で活用できる知識や技術を身に着けたい	0.731	0.146	0.005	0.556
C7仕事に活かせる事なら何でも学ぶつもりだ	0.664	0.144	0.040	0.463
C15将来就きたい職業のために努力しようと思う	0.659	0.029	0.056	0.438
C30日常生活の中で、仕事に役立つことは 何でも吸収していきたい	0.639	0.043	0.149	0.432
C26将来就きたい職業がはっきり決まっている	0.606	-0.048	0.111	0.382
C38将来したい仕事に役立つ資格や免許を取得するつもりだ	0.605	0.097	0.002	0.375
C37誰かの案に従うのではなく、自分で 計画を立てるような仕事をしたい	0.567	0.106	-0.039	0.334
C23将来就こうと考えている職業に関する情報には興味がある	0.556	-0.168	0.260	0.405
C16自分の個性が活かせる仕事をしたい	0.522	-0.005	0.338	0.388
C20いつも目標をもって仕事をしたい	0.522	0.148	0.122	0.310
C19将来就こうと考えている職業について自分で調べようと思う	0.494	-0.074	0.274	0.324
C4将来就こうと思う職業について考えるのは楽しい	0.462	0.069	0.367	0.352
C31仕事を通じて自分を向上させたい	0.375	0.283	0.250	0.283
C13地位や名誉をもたらす職業に就きたい	0.116	0.810	-0.079	0.676
C33職場では高い役職に就きたい	0.033	0.808	-0.028	0.654
C22世間で名前の通った企業や団体に就職したい	-0.068	0.771	0.130	0.616
C29周りから称賛されるような仕事をしたい	0.031	0.664	0.127	0.458
C6人より優れた仕事をするのが重要だ	0.278	0.630	-0.017	0.475
C14給料のいい職業に就くことは充実した生活に欠かせない	-0.096	0.544	0.065	0.310
C9昇格や昇進の機会がある仕事を得ることは重要だ	0.041	0.528	0.148	0.303
C11何か価値ある業績をあげようと考えている	0.318	0.494	-0.178	0.377
C3人と張り合えるような仕事をしたい	0.315	0.362	0.144	0.251
C21常に多くの人との出会いがある仕事をしたい	0.226	0.106	0.733	0.599
C24周囲の人々とコミュニケーションしながら仕事を進めたい	0.210	0.028	0.697	0.530
C28職場では周りの人々との調和が何よりも大切だ	0.174	0.004	0.669	0.478
C17仕事そのものでなく職場の人間関係に興味がある	-0.010	0.058	0.661	0.440
C2仕事を通じて得たい最大の満足は、人との交流から得られる満足感だ	0.362	0.031	0.583	0.471
C12職場では一生付き合える友人を作りたい	-0.092	0.077	0.556	0.324
C8仕事を通じて色々な人に出会いたい	0.377	-0.023	0.533	0.427
C5個人の努力が重視される仕事ではなく 集団の努力が重視される仕事をしたい	0.017	0.063	0.473	0.288
説明分散	5.185	3.691	3.060	
寄与率	0.255	0.127	0.100	
累積寄与率	0.255	0.382	0.482	

Table5 モデル選択ステップの要約

Step	項の増減	df	残差増分	df	残差逸脱度	BIC
1		—	—	99	260.78	415.97
2	-知識・技術の習得と発展志向	1	2.7592	100	263.54	412.42

Table6 偏回帰係数の検定

	偏回帰係数	標準誤差	t値	p値	stb
(切片)	1.4432	1.524	0.947	0.3459	—
社会性志向	-0.1132	0.0507	-2.2351	0.0276	-0.1919
自律性志向	0.0917	0.0262	3.5018	0.0007	0.2980
仕事仲間との連携志向	0.4123	0.0504	8.1794	0.0000	0.6357

注) stbは標準偏回帰係数を表す